

# 学生新聞

放送大学  
埼玉学習センター  
埼玉CSC交流会  
学生新聞  
編集委員会  
〒330-0853  
さいたま市大宮区  
錦町682-2  
TEL.048-650-2611

## 第11回埼玉フェスタは9月に 公開講演会は足立センター所長 今年もジャズ・ライブ・コンサート開催 投句は7月1日から募集開始

埼玉CSC交流会の代表者会議が、6月8日（木）午後1時から開催された。会議には、今年度の役員や各サークル、同窓会、センター事務局の代表者などが集まり、9月9日（土）と10日（日）の2日間に開催が決定している第11回埼玉フェスタについて、様々な協議が行われた。

今年のフェスタは例年よりも1か月早い開催となるため、各種のイベントに関する詳細な内容はまだ未定となっている。また、毎年恒例の俳句・川柳の投句に関しては、毎年、募集期間をフェスタの1か月前からとしてきた。しかし、今年の募集期間は例年より早く、フェスタに先立つ2か月

- ### 第11回埼玉フェスタ 俳句・川柳投句募集
- \* 募集期間**  
7月1日（土）～
  - \* 応募資格**  
放送大学の学生、卒業生、教職員
  - \* 投句数**  
一人につき、俳句・川柳各1句
  - \* 優秀句の決定**  
フェスタ会場での投票
  - \* 投票方法**  
投句者は自分の句には投票不可
  - \* 投票期間**  
フェスタ期間中の予定
  - \* 優秀句には賞品を授与**
  - \* 投句方法**
    - ① 埼玉学習センター9Fロビーに設置する投句箱に直接
    - ② 埼玉学習センター気付フェスタ事務局宛に郵送で
    - ③ 電子メールを利用  
y.shinoda.b.m79@gmail.com

懇親会パーティ、バザーなどについての詳細な日程は、次回以降の役員会に委ねられた。

そして、恒例の埼玉フェスタの特別公開講演会は、9日の土曜日に行われる。講演者は柴眞理子足立学習センター所長となっている。仮題は「身体表現の力 Dance for All」からだは語る・からだで語る」と決まった。

埼玉フェスタに独特の雰囲気を出している「お茶席」は現在、今年の実施が未定となっている。しかし、「アンチエーシング」サークルによる、誰もが参加できる合唱会が、懇親会準備中に多目的室にて開催される予定である。

また、参加者から非常に喜ばれ、大きな反響を得ている懇親会パーティでのジャズ・ライブ・コンサートは、フェスタ恒例の催しとなっているが、今年も、10日の日曜日に予定されている。（冬木）

### 事務室からのお知らせ

7月の単位認定試験  
実施は21日から

7月21日（金）～30日（日）まで単位認定試験が行われます。試験時間を確認し、遅れないよう受験して下さい。

### 第2学期の科目登録

8月30日日本部必着  
平成29年度第2学期の授業科目登録は次の通り

### 卒業研究ガイダンス

7月2日に説明会  
左記日程で、卒業研究ガイダンスを行います。

### 看護師・准看護師等への個別相談会

7月と8月に開催  
埼玉学習センターのオープンキャンパスを左記の日時に行います。

### 学生募集の開始時期

平成29年度第2学期  
7月28日（金）、8月1日（火）、2日（水）、12日（土）、13日（日）及び15日（火）に臨時開所となりますので、ご注意願います。

### 学生を募集しています

出願が切（大学本部必着）は、第1回が8月31日（木）、第2回が9月20日（水）までです。放送大学に興味・関心のある方をご存じでしたら、是非、ご紹介下さい。

### 臨時開所のお知らせ

埼玉学習センターは、7月28日（金）、8月1日（火）、2日（水）、12日（土）、13日（日）及び15日（火）に臨時開所となりますので、ご注意願います。

### 「引退を決意する時」

長い間、日本の女子バレーボール界を引っ張ってきた木村沙織選手が3月下旬に引退を発表した。17歳の時から日本代表として4度のオリンピックに出場し、今迄日本チームの主将として背負い続けた強い責任感をずっと保持する事は大変な重圧であったろう。一昨年の東京体育館での日本選手権大会・皇后杯で見た彼女は、すらりとした色白の笑顔が素敵な女性であった。

希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

### 「第1回《絵画サロンこざわ》」～ドローイングとは何か～福盛田恵子

5月20日（土）午後1時～3時、8階実験室にて、第1回絵画サロンこざわ『ドローイングとは何か。描くとはどういうことか』が開催されました。参加された方々と共に、小澤先生の熱意溢れるお話や映像で学ばせていただきました。

「ドローイングとはラクガキである。対象を前にして得た感覚や情緒、思い当たる自分の心の中にある思考・記憶像などを、自分が感じたこと、思ったこと、自由自在な線や色・形でばあつと描くこと。対象を正確に描く必要なし。自分が気に入ったら、それが正解」と話されました。

映像で、ドローイングの作品が紹介されました。イタリアの画家サイ・トウオンブリーの作品は、子どものいたずら描きのように見えます。これに価値があると最初に言った方だそうです。オーストラリアの画家エミリー・ウングワレーの作品は、ねっこを力強く描いています。美術教育を受けたことがなく、70歳を過ぎてから絵を描き始めた方だそうです。メキシコの画家フリーダ・カーロのドローイング日記、アメリカ合衆国の女流作家ジェニファ・バートレットの作品等が紹介されました。

10代の学生の頃、美術の学習のスタートに石膏デッサンをした私は、描く対象の形をより正しく描く描写力が、表現力との思い込みがありました。どうやら違うと思うようになりました。デッサン力があるかなしかなではなく、自分の描きたい思いで自由に描くことが、自分の表



と感じた。誰かが日本のエースとして認めていた彼女が、引退会見の場で「自分がエースと思った事はない。まだ自分は発展途中であり、いつ辞めても良いと常日頃思っていた」と述べたのには感動した。一流選手にもなるかと、どこかに心の余裕と、我々と違う何かを持っているなと感じた。

現に繋がることにドローイングを自己発見・表現ツールとして楽しもうと思えました。描いた絵を持参した参加者が作品を見せてくださり、小澤先生の先導で鑑賞会をしました。花や風景のスケッチとご自身の記憶を入れて作品にした絵の写真を見せてくれた方がいました。博物館の仏像のスケッチを見せてくれた方もいました。

似顔絵や、自らの想像と創造の世界を広げた遊び心満載の絵を並べて見せてくれた方もいました。それぞれの思いで、絵を描くこと・見ることを楽しんでいました。描くことに上手・下手はないことを痛感し、絵を描く楽しさ、見る楽しさ、鑑賞しあう楽しさを体験した時間でした。学習センターのロビーに月替わりで展示させていただいたら、より多くの方々に楽しんでいただけそうとの提案もありました。



小澤先生から、「ドローイングを楽しくやりましょう。自分にふたをしなくて、『自分って素敵』を発見しましょう。」とのお誘いがあり、次回（6月17日）は、自作のドローイングやスケッチ・絵日記等を持ち寄っての鑑賞会や描画をすることになりました。スケッチブックや描画材（鉛筆・墨・ボールペン・クレヨン・水彩絵の具・アクリル絵の具等）を持参します。一緒に、ドローイング・ラクガキを楽しみながら、自己発見の旅に出しましょう。

（写真はいずれも、小澤基弘先生の作品）

負けた原因を分析し、更に次の試合に活かそうという努力をしなくなると、引退の決意をするものだと私は考えていた。誰もが日本のエースとして認めていた彼女が、引退会見の場で「自分がエースと思った事はない。まだ自分は発展途中であり、いつ辞めても良いと常日頃思っていた」と述べたのには感動した。一流選手にもなるかと、どこかに心の余裕と、我々と違う何かを持っているなと感じた。

